

2012（平成 24）年度 金沢大学法学類入学者選抜試験（後期日程）

小論文問題、出題趣旨及び講評

（2012 年 3 月 12 日 9:30～11:30 実施）

問題

次ページ以下の文章は、山岸俊男・吉開範章『ネット評判社会』（NTT 出版，2009 年）5 ページから 26 ページまでを、一部修正・省略の上引用したものである。よく読んで、次の問いに答えなさい。

問 1 本文の最初から 6 ページ 25 行目「・・・そのもとで暮らす人々に対して安心を提供しているのである。」までを 700 字以内で要約しなさい。

問 2 10 ページ下線部①を 150 字以内で説明しなさい。

問 3 12 ページ下線部②の理由を 350 字以内で説明しなさい。

問 4 今後の日本社会はどうあるべきと考えますか。本文中の基本的な概念を用いつつ、具体例をあげてあなたの考えを 700 字以内で述べなさい

【問 1 について】

〈出題趣旨〉

課題文の指定の範囲について、著者の論述の構造と内容を正確に把握できているか、それらを簡潔な文章で表現することができるか等を確認するための問題です。

〈解答例〉

「相手の人間性を信頼しているので安心してつきあうことを「信頼」とよび、相手の人間性を信頼してはいないが、相手が自分を裏切った場合にその相手に制裁を科す社会制度が整っているので安心してつきあうことを「安心」とよぶ。この社会制度には、第一に、誰に対しても等しく適用される行動基準としての法律と、法律を適用するための警察・司法制度があり、第二に、共同体の中で互いに監視しあい、自分や仲間を裏切った人間との付き合いをやめたり、共同体から排除したりする集団主義的秩序がある。後者の集団主義的秩序は、集団から排除されると、受け入れてくれる他の集団を見つけることが難しい状況のことであり、そのような状況において人々は、いったん集団から排除されると、生きていくために必要な、物質的・心理的・社会的な資源を手に入れることができなくなってしまう。このため、集団主義的秩序は、安心を保証する制裁として有効に機能するのである。また、集団主義的秩序においては、相手からの直接のお返しを期待してする行動、すなわち互惠行動ではない、利他的な行動がみられる。なぜなら、人に親切にすると良い評判ができて、他の人からも親切にされるので、結局は自分の利益になるからである。このため、人々は集団の中で協力的な人間であることをつねにアピールしておく必要がある。このように、自分の集団の仲間を裏切らないように行動している限り、集団の内部では安心して暮らすことができるのである。」（615 字）

〈講評〉

信頼と安心、社会制度、集団主義的秩序、利他的・間接互惠的な行動の説明にそれぞれ 1/4 ずつ配点しました。本文の論述の流れは比較的分かりやすいと思いますが、繰り返しの部分も多いので、その部分を削ぎ落して整理すれば答となります。後半部分を整理しきれない答案が多く見られました。

【問2について】

〈出題趣旨〉

課題文 10 頁下線部①「信頼には「関係強化」と「関係拡張」という二つの役割が伴っている」から 11 頁半ばまでの記述の趣旨を理解しているか問うものです。

〈解答例〉

「信頼には、特定の相手におびえて取引費用を支払う必要を解消し、さらにこれまでのつきあいを一層スムーズにするという「関係強化」機能がある一方で、機会費用を抑制するために、安心が保証されていない相手との固定的な関係を越えた新たな関係の形成や資源の獲得を可能にするという「関係拡張」機能もあるということ。」(148 字)

〈講評〉

「信頼」における「関係強化」と「関係拡張」の各機能の意味をそれぞれごく簡単に要約したうえで、「関係強化」機能は取引費用の節約に、「関係拡張」機能とは機会費用の抑制にそれぞれ対応するものであることを明確にしなければなりません。「関係強化」機能と取引費用の節約との関係を指摘できていても、「関係拡張」機能によって機会費用が抑制されることをきちんと示した答案は多くはありませんでした。

【問3について】

〈出題趣旨〉

下線部②「日本人の一般的信頼の水準が、アメリカ人の一般的信頼の水準よりも大幅に低い」の内容について、課題文の論旨に沿ってしっかり理解できているかを問うものです。

〈解答例〉

「終身雇用・年功序列制に特徴づけられる日本社会は、集団主義的な原理に従って集団の内部に安心が提供されている。そしてその集団の中で暮らす人にとっては、属している集団の外部には自分に有利な機会がほとんど存在せず、また集団に属し続けることによる機会費用が極めて低い。このため、他者への一般的信頼は低くなる。一方、アメリカのような個人主義的秩序では、安心を維持するために集団を閉ざす必要がなく、むしろ集団の外との関係を形成する必要がある。そこでは、安心した関係にはない他人を信頼することが必要であり、このために、他者への一般的信頼は高くなる。これが、日本人とアメリカ人とを比較したときに、日本人の一般的信頼の水準のほうが低い理由である。」(313 字)

〈講評〉

採点のポイントとしては、次の A・B 2 点を指摘していることです。A 日本社会のような集団主義的秩序の特徴、とりわけ一般的信頼が形成されない理由。B アメリカに見られるような個人主義的秩序の特徴、とりわけ一般的信頼が形成される理由。

課題文では、下線部②の直前において、集団主義的秩序では「信頼の関係拡張機能」が役に立たないのに対し、個人主義的秩序では「信頼の関係拡張機能」が有効に機能していると、両方を対比させて論じています。従って、解答でも、上記 A のみならず、B も指摘して欲しかったところですが、A のみに止まる答案が少なくありませんでした。

【問4について】

〈出題趣旨〉

課題文の内容を適切に理解した上で、課題文の論旨を具体的問題に応用する論理的な能力と的確な論述能力を問うものです。

〈解答例〉

「今後の日本社会では、これまでのような集団主義的秩序に依拠した社会秩序の維持が困難になることが予想される。たとえば、これまでの日本社会では、近所の人々が町内会や町内行事を通じて交流を深めることで間接互恵的な関係が形成され、その結果、地域の防犯体制が確立されて低いコストで犯罪の発生を防ぐことが可能となっていた。しかしながら、高齢化の進展や住民意識の変化、国際化の進展などにより、地域住民の相互協力関係を通じた防犯体制の維持は困難となっている。したがって、防犯カメラの設置や警察官によるパトロールの増加といった警察機能を拡大させることが必要になると考えられる。しかしながら、防犯カメラなど警察機能の拡充は、犯罪の発生防止に対する住民の意識をさらに低下させ、行政や司法制度に対する住民の依存度を高めるといった問題点がある。さらに、国や地方の財政は危機的状況にあるため、防犯体制の維持、向上のために多額の費用を負担することは困難になると予想される。したがって、新しいタイプの住民活動の拡大を通じて集団主義的秩序と個人主義的秩序の組み合わせを再構築し、安価な費用で人々が安心して生活できる社会を整備することが求められている。地域住民による NPO 法人や行政、学校関係者が共同で行う通学路の安全点検や、登下校時の見守り活動などはその好例であるといえよう。このような社会関係の形成を図るためには、教育などを通じて他者との関係形成の手法やそれが生み出す利益を多くの人が認識し、信頼の関係拡張機能が有効に作用する基盤を整備する必要がある。」(659 字)

〈講評〉

課題文中の基本概念（集団主義的秩序、信頼、機会費用など）を適切に理解し、答案において用いているかが第1のポイントとなります。課題文中の概念ではなく、一般的な意味での「信頼」や「集団主義」の概念を用いて論述を行う答案が多く見られました。第2のポイントとして、具体的な例をあげながら解答者自身の考えを論理的に記述しているかが問題となります。解答者自身の体験や感想のみを記した答案に対しては高い評価を行うことはできませんでした。また、具体例をあげる際には、答案の論理展開と整合性のあるものを示す必要があります。答案の論旨との関連が不明確な場合には、高い評価を与えることはできませんでした。